

水田園芸に取り組む上での留意点

～初めての栽培で失敗しないために～

1. 栽培計画は無理をせず

- 初めて野菜を作る場合、栽培しやすい時期、品種を選び、無理のない栽培計画を立てましょう。

※詳細は県・JAの指導員と相談しましょう。

2. 野菜栽培に適したほ場準備のポイント

- 水田の土は、粘土質で塊やすく、水はけが悪いです。一方、野菜は湿害に弱いため、**排水対策が特に重要となります**。排水対策機械を活用し、排水対策を徹底させましょう。
- 根の張りを良くするため、耕耘は数回行い、土を細かくしましょう。
- 排水対策・耕耘ともに、ほ場が乾いている時に実施してください。
- ほ場の準備が遅れ、定植が予定通りできないと苗が老化し、低収量につながります。降雨による準備の遅れも想定し、早めから準備を行いましょう。

<排水対策>



【額縁明渠の施工】



【弾丸暗渠の施工】

<収量低下の要因>



【老化した苗】



【根張りが悪く生育不良】

3. 肥料は適切に

- 野菜にとっての肥料は、人間にとっての食事と同じです。適切な量とタイミングが大切です。基本的には栽培暦通りに施用しましょう。
- 降雨が続いた場合、散布した肥料成分が流出することがあります。必要に応じて次の追肥を早めるなどの対応が必要となります。
- 水田の土は酸性を示す場合がほとんどです。土壤分析を踏まえ、石灰資材で調整しましょう。



【酸性土壌による生育障害例】

4. 雑草対策のポイント

- 雑草対策には除草剤を上手く活用しましょう。
- 定植した後、土壌処理型除草剤を散布し、雑草を生やさないようにします。土壌処理型の除草剤を散布する時は、ほ場が湿っていないと効果が落ちます。
- 畝を立てた後、定植までに期間があく場合、雑草が発生します。必要に応じて畝立て後に土壌処理型の除草剤を散布してください。



【除草剤の効果例(同一ほ場)】

5. 農薬の取り扱いでの注意点

- 使用する農薬は、最新の防除暦を参考にして選択しましょう。使用にあたっては、必ず**農薬のラベルを確認**し、使用方法、希釈倍率、回数等を確認してください。
- 病害虫の診断、農薬の選択等に不安がある場合は、県やJAの指導員に早めに相談しましょう。
- 薬害発生を回避するため、散布ノズルは野菜用(一般用)を使用してください。また、防除機を他の作物と共用している場合は、タンクや防除機を使用後にきちんと洗浄しましょう。



【農薬ラベルの確認】



【薬害例】

6. 施設栽培での注意点

- 加温機や開閉装置等の電気機器を使用しているハウスの場合、停電により設定がリセットされる場合があります。停電した場合、必ず設定を確認しましょう。



【ハウス内環境制御装置】

〈問い合わせ先〉

島根県東部農林水産振興センター

農業振興部 tel:0852-32-5686
安来農業部 tel:0854-22-2341
雲南事務所農業部 tel:0854-42-9570
出雲事務所農業部 tel:0853-30-5600

西部農林水産振興センター

浜田農業部
県央事務所邑智農業部
県央事務所大田農業部
益田事務所農業部
隠岐支庁農林水産局農業振興部
農業技術センター技術普及部(東部)
(西部)

tel:0855-29-5621
tel:0855-72-9589
tel:0854-84-9706
tel:0856-31-9611
tel:08512-2-9683
tel:0853-22-6934
tel:0855-29-5583